

第3学年〇組 道徳科学習指導案

1 主題名 弱さの克服

2 教材名 「二人の弟子」 (出典:「中学生の道徳 自分をのばす3」廣濟堂あかつき)

ねらい 人には誰しも弱さがあり、それをなかなか克服できない自分がいるということも周囲との話合いを通して共感的に理解をさせ、その上で、それらを克服しようとする生き方の素晴らしさを登場人物の生き方に共感させることで前向きに捉え、どう生きていくかを考えることで、よりよく生きていこうとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

学習指導要領解説では、小学校では低学年・中学年では「よりよく生きる喜び」という内容項目は取り扱ってはいない。また、今回の改訂で始めて高学年から「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる」と示されるようになっていく。つまり、この内容項目は、発達の段階からみると、理解するにはレベルの高い項目であると考えられる。小学校高学年の内容を受け、中学校では、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと」と示されている。

ありのままの人間は、決して完全なものではなく、誰の心の中にも弱さや醜さがあり、それと同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心ももっている。つまり、人間は、総体として弱さをもっているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。また、「気高く生きようとする心」は、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心であり、その気高さは、自分の義務を遂行できたとき、他者との絆を守れたときや本来の自己を取り戻せたときに喜びとして感じる。このことは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことのできない自己の強さであり、気高さである。つまり、人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく表裏一体の関係であるといえる。そのような人間として「よりよく生きる喜び」を理解し、気高く生きていくために自分自身の弱さや醜さを克服していこうとする態度を育てていきたい。

なお、指導に当たっては、自分だけが弱いのではないということに気付かせたうえで、弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

この学級は男子〇〇名、女子〇〇名の計〇〇名である。また、複数の小学校から入学してきた生徒がいるが、2か月のうちにお互いに仲を深め、心を通わせてきたころである。そのため自信をもって発言することも多く、意欲的に参加することができている。その反面で、普段か

ら大人しい生徒は発言をしなくても済んでしまう、または、圧倒されてしまい発言しにくいといった問題もある。そのため、机間指導の際に声掛けだけでなく、ノートの記述にも目を通し、発言を手助けできるような助言をしていく必要がある。

また、前時に「誠実」について学習した際には、多くの生徒が「先の約束だから、約束を守るべき。」や「後から好機には代理が立てられるが、先の約束には代理はいない。」など、先の約束を優先する意見が多い中で、「自分のことを中途半端にってしまう人が、他人を幸せにはできない。誠実に生きるためには、まずは自分を大切にすべきだ。」という違った視点からの誠実を語ってくれる生徒もおり、様々な価値観に触れることができ、考えが互いに深まったように感じた。今回は、二択になるような教材ではないため、活発な議論を促すよう、こちらの問いかけや問い返しも、より大切にしていきたい。

また、何事に対しても「面倒くさい」や「どうせ無理」と諦めやすい発達の段階でもあるため、そんな自分の弱さや醜さを理解し、その上でよりよく生きていこうと前向きな気持ちで授業が終えられるよう気をつけたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

「二人の弟子」は、中学生が理解し、深めていくには極めて難しい内容である。また、本文自体も長編であり、物語を把握することが第一関門であると考え。そのため、範読後に簡単に内容を整理し、全員が教材を理解した上で議論できるよう工夫していきたい。

教材の概要は、意志の弱さから邪念に迷い修行を投げ出した道信と、真面目で潔癖ゆえに舞い戻った旧友を受け入れられない智行が、それぞれ自己の心の弱さに気付いていく姿を通して、ねらいに迫るものである。性格や生き方が異なる二人が、ともに自己の弱さや醜さに苦しみ、それを乗り越えていくことで自己の強さや気高さに気づき、よりよく生きていこうとする姿が描かれている。自己を見つめることによって己の弱点に気づき克服しようとする二人の共通点を捉えつつ、道信、智行それぞれの心境やその動機を探っていくことで、深くねらいに迫れる教材である。

また、受験も控え、自分の立ち位置が気になり、嫌でも他と自分を比較せざるを得ない場面が増えてきている。つまり、自然と自分の弱さや醜さが表出してしまう時期であるともいえる。そういった意味では、難しい教材ではあるが、タイムリーな教材である。本教材を通して、自分の中にもある、弱さや醜さに気付かせるとともに、誰しものがそうであり、それを克服しようと努力し生きているからこそ輝けるということを前向きに捉えさせたい。そうすることで、人間として気高く、そして、よりよく生きようと努力する態度を養っていきたい。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導 入	1 アイスブレイキング ◎してはいけないと知りつつ、ついやってしまうことはあるか？ ・やりたくてもできない ← とはどういうこと？ →人の弱さへつなげていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道でない所を渡ってしまった。 ・勉強しなくてはいけないのに、TV、PC、ゲームをしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容に関わる、生徒の現時点での価値理解をおさえる。
展 開	範読 2 教材を読んで話し合う → 内容の整理 上人、道信、智行の気持ち、人柄を押さえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・上人は二人を信頼し、期待し本山へ送った。 ・道信は恩返しをしようと思っている。 ・智行は立派な僧侶になろうと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物へ自我関与させる。 ・意見を批判させないようにする。
	自分自身と向き合って生きていくとは？		
	補 道信がフキノトウを見て気付いたこととは？ 補 智行が白百合を見て気付いたこととは？ (2) 私たちには、どんな弱さや醜さがあるだろうか？ (個人⇒班) (3) この後の道信と智行はどう生きていくだろうか？ 補 私たちはどうだろうか？ その違いは？ 何が必要なのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱さや醜さを受け止め、それらを克服しようとして、よりよく生きていくこと。 ・数多く過ちを犯してきた。 ・今からでもやり直せる。 ・道信と白百合が重なって見えた。 ・旧友を応援できない心の狭さ。 ・素直に認めてやれない自分の醜さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい内容であるため、補助発問を用いて、多くの意見を出させる。
終 末	3 教師の説話 「人間は考える葦である」 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を記入する ・感想を発表させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い部分を克服していきたい。 ・みんなそれぞれ弱さや醜さがあることを知った。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆弱さ、醜さについて自分なりの考えがまとめられている。 (記述・発言・表情)

5 事前事後の工夫

	教師	生徒・保護者	他の教育活動との関連
事前	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生徒指導 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに、目標を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 学活 「班の目標を決めよう」 各教科 分からない所も根気強く学習する態度を養う。
本時	<ul style="list-style-type: none"> 「二人の弟子」弱さを克服して生きていこうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の弱さについて理解する 自分自身の克服すべき課題を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 無理と諦めてしまった経験、分かろうと努力した経験と結びつける。
事後	<ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートを回収／コメント記入 学級通信作成 班の目標の再確認 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートの提出 学級通信配布 班の目標と絡めて、自分の弱さを克服する実践を積ませる 	<ul style="list-style-type: none"> 諦めず取り組もうとする態度を認め、伸ばしていく。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 多様な感じ方や考え方を基に、新しい価値観に気付き、自分の考え方を明確にしたり、深めたりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- 主人公に自分の考えを託して考えることを通して、自分なりの人間の弱さや醜さについて考えている。

7 板書計画

二人の弟子

智行

- 立派な僧侶になる
- ↓
- 僧侶になり、故郷の西山寺へ

道信

- 恩を返すために頑張る
- ↓
- 修行から逃げ出した

信頼期待

上人

自分自身を向き合って生きていくとは？

一輪の白百合

- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~

フキノトウ

- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~

Q 私たちには、どのような弱さや醜さがあるだろうか？

- うまくいかないとすぐ諦める。
- テストなどで、人のことを羨ましく思ってしまう。

Q 道信と智行は、これから変わっていくだろうか？

↓

なぜ？変わるために必要なことは？

感想

- ~~~~~
- ~~~~~